

9年間で育てる(小中連携) ～黒沢小・黒沢中学校～

大子町立黒沢小学校（櫻岡三喜男校長）と黒沢中学校（鈴木暢彦校長）は、「黒沢中学校区小中学校連携連絡会」を組織し、9年間でめざす児童生徒像「自ら考え、主体的に判断し、行動する児童生徒の育成」を掲げ、小中連携に取り組んでいます。

「黒沢中学校区小中学校連携連絡会」は、教頭、教務主任、研究主任など8名で構成され、年間3回の会議を行っています。会議の主な内容は、第1回「計画立案と内容確認」、第2回「実施状況確認と内容改善」、第3回「達成状況確認と次年度計画」となっており、小中連携をPDCAサイクルで進めています。

平成22年度の連携計画は以下のとおりです。



小中合同体育祭

連携	実施予定日	内 容	備 考
1	随時 5・8・3月	・相互授業参観 ・生徒指導に関する連携（学期に1回）	小・中学校 中学校
	随時 5・8・3月	・学校だよりの相互掲示 ・小中合同研修会の実施（学期1回） （特別支援教育に関する研修を含む）	小・中学校 中・交流セ
	7月	・安全管理に関する連携（危険箇所や情報の共有）	中学校
2	7・11・2月	・中学生の小学校における読み聞かせ（年3回）	小学校
	9月11日	・学校行事における連携（小中合同体育祭）	小学校
	12月3日	・小学6年生の体験入学（中学校入学説明会）	中学校
3	8・12月	・学力の実態把握のための連携（テスト・調査等の情報交換）	小・中学校
	随時	・学力向上を目指した教科の連携（国語、算数・数学）	小・中学校
	5・8・1月	・家庭での学習習慣確立のための連携（学期に1回）	小・中学校
	随時 随時	・相互授業参観・研修（国語、算数・数学） ・中学校教員による出前授業（英語、音楽、美術）	小・中学校 小学校
4	8月	・生活習慣や規範意識確立のための連携	交流セ
	6・11月	・マナーアップ運動の推進（あいさつ）	小・中学校
5	8月	・体力や健康状態の把握と運動習慣確立のための連携	中学校
	9月	・小中合同体育祭の合同練習	中学校

我が家の7つの約束

- ①早寝早起きをしよう。
- ②朝ご飯を毎日食べよう。
- ③家族と毎日あいさつをしよう。
- ④家庭学習を毎日しよう。
- ⑤読書に親しもう。
- ⑥前の日に次の日の準備をしよう。
- ⑦遊びの約束を決めて守ろう。

我が家の遊びの約束

黒沢小学校・中学校・PTA

特色ある取組として、5年前から実施している「小中合同体育祭」、学期に1回実施している「中学生の小学校における読み聞かせ」、中学校教員が小学校の外国語活動、音楽、図画工作の授業を行う「中学校教員による出前授業」などがあります。

更に今年度は、両校の生徒指導主事が中心となって、児童生徒の基本的な生活習慣を確立するための「我が家の7つの約束」を定め、4月から実践しています。

昨年度、両校で生活実態調査を行ったところ、テレビを見たりゲームをしたりする時間が長いなど、家庭生活上の課題が明らかになりました。そこで、保護者と協力して、7つの約束を各家庭で取り組んでもらい、より良い生活習慣を身につけさせようと考えました。保護者と話し合ったり、生活実態調査を行ったりして状況を確認しながら、成果ある取組にしていこうとしています。

黒沢小学校・黒沢中学校は、小中連携を通して「日本一の学校づくり」をめざしています。

よく学び 心やさしく たくましく・黒沢小学校

平成22年7月7日付け茨城新聞に、黒沢小学校が環境教育部門で「小平記念教育資金」の贈呈を受けたことが紹介されました。黒沢小学校は、学校周辺の生き物を調べたり、八溝川を探検したり、黒沢地区の自然を観察するなど環境教育に積極的に取り組んできました。平成18～20年度には茨城県指定「愛鳥モデル校」研究協力校として研究を推進し、平成20年度には文部科学省指定「環境教育推進事業」に取り組みました。黒沢小学校では、豊かな自然環境を生かして、地域の宝である児童がすこやかに育つように努めています。



校舎前の花壇

昨年度は、花と緑の環境美化コンクールで「茨城新聞社長賞」「大好きいばらき県民会議会長賞」をダブル受賞しました。朝、先生方が花壇の手入れをしていると、いつの間にかそれを手

伝う児童が現れ、その数は日増しに増えていきました。ボランティアを募ると、更に多くの児童が加わりました。明るく元気であいさつもよくでき自ら進んで働く児童が育っているのは、環境教育の推進に加えて、米作りや花栽培など豊かな体験活動を積極的に

推進していること、地域の協力が大きいことなどが上げられます。

黒沢小学校は、学力向上でも成果を上げています。本年度は、研究テーマを「自ら考え、学び合う力を育てる学習指導」とし、「読み・書き・計算」及び「話す・聞く」能力の育成、「根拠を明らかにして相手にわかりやすく伝える」ための思考力・表現力の育成を図ろうと取り組んでいます。

研究の推進には、校内研修の充実が不可欠です。黒沢小学校では、ワークショップ型の研修を取り入れ研修の充実を図っています。ワークショップ型校内研修のよさは、先生方が全員で共通の課題に取り組み、相互作用や双方向性を通じて学びや



ワークショップ型校内研修

成果を生み出すところにあります。ワークショップ型校内研修を行うようになったことで、職員の研修意欲が更に高まり、課題解決に向けて積極的な協議が行われるようになりました。以下のような成果が上がっています。

- 児童が主体的に学ぶ学習活動のための「授業展開パターン」が定着し、次に何をすべきかを判断しながら見通しをもって学習を進めることができている。発表ボード(吹き出し型)などを活用し、比較検討の場を重視した授業を展開している。
- ノート指導として、考えの根拠を書かせたり、学習のまとめを自分のことばで書かせたりしており、学ぶ過程が分かるノートづくりができている。
- 個別カルテ(計算)を活用したり、月例チャレンジテストの合格者に賞状を授与し賞賛したりして、基礎的・基本的な内容の定着が図られている。
- 「学習のやくそく」で学習の仕方を身につけさせ、「家庭学習のしおり」で学習習慣の定着を図っている。
- 読書活動(朝読、家読)の推進を基盤に、音読の発表、音読カードの活用など音読学習も充実している。
- 通常の学級でも、特別支援教育の視点を取り入れて個別指導の充実を図っている。
- サーキットトレーニングのコースを設定し、体育の時間や休み時間などを利用して体力づくりに励んでいる。

学力向上について、櫻岡三喜男校長先生は「昨年度の無欠席は103日です。心身が健康であるということが、学力にも大きくつながっているのだと思います。」と話されていました。



発表ボードの活用

自ら学び 心豊かに たくましく・黒沢中学校

大子町立黒沢中学校は、平成21年度第10回環境美化教育優良校等表彰事業の散乱防止部門において最優秀賞「農林水産大臣賞」を受賞しました。昭和35年5月15日に始めた八溝山清掃活動を、現在に至るまで50年以上も続け、八溝山の美化に努めてきたことが高く評価されての受賞です。保護者も在学中に八溝山清掃を行ったという二世帯、三世帯に渡る美化活動を支えてきたのは、学校と地域が一体となって、地域の誇りである八溝山を守っていこうとする強い気持ちの現れです。これまでも、県知事賞、林野庁長官賞など多くの賞をいただきましたが、更に大きな賞が加わり、生徒はもちろんのこと地域にとっても大きな喜びとなっています。職場体験活動や花壇なども含めて地域との連携を生かした体験活動を推進し、生徒の豊かな心を育てています。



歴史と伝統ある木造校舎



八溝山清掃活動

黒沢中学校は、生徒数44名、教職員数15名の小規模校ですが、生徒が文武両道の活躍をしている元気な学校です。部活動は、野球部、女子バスケットボール部、剣道部、女子ソフトテニス部の4つですが、地区大会で3つの部が優勝し、個人戦を入れると、全部の部が中央地区大会へ進出するという素晴らしい成績を上げています。中央地区陸上競技大会では、走り高跳びで優勝し、県大会に出場する選手も出ています。部活動の時間になると、生徒は校庭の周りの一周約400mのコースを走ります。地道な努力によって基礎体力を高めていることも、好成績の要因と考えられますが、最大の要因は「心を耕し体を鍛える」ことを目標に取り組んでいることです。目標達成のために、元気なあいさつ、笑顔、言葉遣い、後始末など基本的な生活習慣の徹底を通して、本番や大きな舞台で実力を発揮できる生徒の育成に努めています。そして、何よりも、目標を達成しようとする教師の情熱が大きな力となっています。

黒沢中学校は、学力向上にも成果を上げています。本年度は、研究テーマ「学ぶ力をはぐくむ指導法の工夫（2年次）」を掲げ、「わかる授業・身につく授業」を目指し一時間の授業の充実を図っています。小規模校のよさを生かしたチームサポートによる個に応じた支援や個人カルテの活用などに取り組んでいます。授業研究は、1人年間3回（計画訪問など学校訪問での授業は含めない）実施します。また、校長先生や教頭先生も道徳の授業を実践するなど率先垂範で取り組んでいます。以下のような成果が上がっています。

○ 相互授業参観と研究協議の回数を重ねることで授業力の向上が図られている。
○ 生徒一人一人が主体的に学ぶ機会を多く組み入れた授業実践が継続されている。
○ 朝読の継続により、集中力が身につく、読解力が向上している。
○ 県学力診断のためのテストで、各教科とも目標値を上回ることができている。
○ 学び直し、小テスト、反復練習に力を入れて指導しており、基礎学力の向上が図られている。
○ ノート指導では、消さない指導、赤ペン指導が継続されており、学びの過程や自らの考えを振り返るノートづくりが進んでいる。

学力向上について、鈴木暢彦校長先生は、「授業では、内容がわかることよりも、まず、これからやることがわかる、ということが第一です。なぜなら目標が持てるからです。目標を持つことが大切です。」と話されていました。



朝読の様子